

子どもたちの「伝えたい」を引き出す小中 交流授業(英語科)を7月21日に行いま す。

小中一貫教育の推進に向け、同一テーマ(環境・絶滅危惧種)を学ぶ小学6年と中学3年による英語科交流授業を公開。中3が既習表現を駆使して行う発表を通じ、小6の学習意欲向上と小中ギャップ緩和を図ります。単元を貫通した全2回の「学びのバトンタッチ」を目指す試みをぜひご取材ください。

1 日 時

令和8年7月21日(火) 10:50~11:35

2 会 場

伊那市立西箕輪小学校 視聴覚室

3 内 容 同一テーマによる小中英語交流授業

- ・「6年生に伝える」目的のため、中3が既習の語彙・表現を再構築して発表します。
- ・先輩の姿から中学校での学びのゴールをイメージし、進学へのモチベーションを高めます。
- ・冬の第2回では立場を入れ替え、小6が中3へプレゼンを行う双方向のカリキュラムです。
- ・小中の指導ギャップの解消と、必然性のある言語活動の構築を目指した実践を提案します。

4 その他 なし

5 添付資料 ☒ 有 ☐ 無

[本件に関するお問い合わせ先](#)

[ここに入力]

小中一貫教育（小中接続）推進に関わる 交流学習企画書

提出日： 2026 年 6 月 9 日

提出者： 西箕輪中学校 高木未櫻 中平達也

西箕輪小学校 内田宏子

1. 企画名

英語科・外国語科における小中接続交流プロジェクト

～「絶滅危惧種（Endangered Species）」をテーマにした相互発信型コミュニケーション～

2. 実施の経緯

中学校 3 年生（7 月）および小学校 6 年生（11 月～12 月）のカリキュラムにおいて、共に「絶滅危惧種」に関するトピックを扱う。中学校で身につけた英語の表現力を小学校へ還元し、また小学校での学びを中学校が受け止めるという「双方に意義のある学びの循環」を生み出すため、教科の連続性を活かした小中接続の交流機会を設けることとした。

3. 目的

- **【小中接続の視点】**
 - 中学生の姿（英語を話す・表現する姿）を間近で見ることで、児童の中学校生活や英語学習に対する憧れと意欲を育む。
 - 義務教育 9 年間の見通しを持った、異年齢間の肯定的な人間関係を構築する。
- **【中学校 3 年生の目的（発信・還元）】**
 - 既習の英語・知識をフルに活用し、「相手（6 年生）に伝わるように工夫して表現する力（パフォーマンステストの実践の場）」を養う。
- **【小学校 6 年生の目的（意欲・探究）】**
 - 単元のゴール（パフォーマンステスト・成果発表）として設定し、中学生とのクイズ交流を通じて「学んだ英語を駆使して、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を養う。

4. 実施内容および時期（予定）

本プロジェクトは、1 学期（中学校主導）と 2 学期（小学校主導）の 2 段階構成で実施する。

【第 1 弾：中 3 から小 6 へのアプローチ】

- 時期： 7 月 14 日（火）4 時間目 3 東と 6 年さわら組
- 7 月 21 日（火）3 時間目 3 西と 6 年ひのき組
- 場所：西箕輪小学校 視聴覚室
- 内容：「中 3 による絶滅危惧種プレゼンテーション」
 - 中学校 3 年生が教科書で学んだ内容を基に、自分で選んだ絶滅危惧種についての紹介ブース（またはポスターセッション形式）を作る。
 - これから同トピックを学ぶ 6 年生にも伝わるよう、スライドの視覚効果を高めたり、易しい英語と言い換え（ジェスチャー等）を交えて紹介する。
 - 6 年生はゲストとして参加し、中学生の発信を聞く。

【第 2 弾：小 6 から中 3 へのチャレンジ】

- 時期： 11 月下旬～12 月上旬（小学校の単元終了後）

[ここに入力]

- **内容：「小6作成：なりきり絶滅危惧種 3 ヒントクイズ大会」**

- 小学校6年生が授業で学んだ英語を使い、自分が絶滅危惧種になりきった「3 ヒントクイズ」を作成する。(例："I live in China." "I am black and white." "I like bamboo. Who am I?")
- 中学校3年生を解答者として迎え、小6が英語でクイズを出題。中3がそれに英語で答える、あるいはアドバイスを送るなどの交流を行う。

5. 期待される効果

- **児童・生徒の変容：**中3は「伝わる喜び」を実感することで自己肯定感が高まり、小6は「中学校の英語ってカッコいい、自分もやってみたい」という学習意欲の向上につながる。
- **指導上のメリット：**小中の教員が互いの授業内容や子どもの実態を把握しやすくなり、今後の指導の円滑な接続（小中連携）に寄与する。

6. その他（実施形態の検討案）

- 対面実施が難しい場合は、ICT 端末（Teams/Zoom 等）を活用したオンライン交流、または動画メッセージの送受信による交流を検討する。
- 具体的な時間割の調整や実施場所については、小中それぞれの学年主任および英語科担当で連携し、詳細を詰める。